

ジモトで座談会 ～市長と明日のまちを考えよう～ 東部地区

1 開催日時・場所

- (1) 日 時 令和7年10月24日（金）午後6時～午後8時
- (2) 場 所 東部公民館 2階 大会議室

2 テーマ

- (1) 松本市の景観について
- (2) 中学校部活動地域移行について
- (3) 道路の渋滞解消について
- (4) その他

3 参加者

市長・中心市街地活性化本部長・教育政策課課長補佐、発言者4名
傍聴者19名（町会長8名、一般参加者11名）、市関係者5名
地区職員3名

4 次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地区代表あいさつ
- (4) 課題等説明
- (5) 意見交換
- (6) 閉会

5 意見交換

- (1) 松本市の景観について

【原山町会長】

私は、自宅を利用して「books 電線の鳥」という古本と喫茶の店を運営しています。

5月にライブのため松本を訪れた「Menow」という男女2人ユニットのミュージシャンが、ライブの翌日に遊びに来てくれました。この2人が、後日ポッドキャストラジオで、そのときの松本の印象を「アメイジング松本」と題して語り、冒頭部分で松本の景観についての話をしていました。その中で松本の良さとして「ほど良い空気感やタイム感」「建物を大切に使い続けていることによる落ち着き」「建築物の高さ制限による風景の抜けの良さ」を挙げていました。

私としても共感するところが多く、付け加えるならば、城下町の特性で長い直線道路が少ないため、歩くにつれて景色が連続的に変化していくこと、湧水・石碑・稲荷神社など、小さいけれど趣のあるスポットが多いこと、個性的な個人商店が多いこともあるように思います。

本日は、「建築物の高さ制限による風景の抜けの



良さ」に着目したいと思います。城山方面から、市内を見下ろしたときに感じますが、近年、駅周辺地域で、高層マンションの建設が相次ぎ、山々との関係で景観が大きく変わろうとしています。

今年5月には、ホテルブエナビスタ付近に15階建マンションが竣工しました。

さて、伝え聞くところによると、市長は、賑わい作りのために駅前に商業施設が入った高層ビルを建設するお考えをお持ちとのことで、仮にそうだとすると、松本の良さが長期にわたって失われるのではないかと心配になります。

市長が好きな松本の景色は何でしょうか？市長がお考えになる松本市の景観特性と、今後の方向性、そして駅前高層ビル建設計画の有無をお答えください。

【市長】

Menowさんの感想は、私達が誇りにしていることを言葉にさせていただき、それを「アメイジング松本」と表現していただいているのは、非常に嬉しいことだなと思ってお聞きしていました。

ご質問いただいた私が好きな景色は、松本城の天守とその奥に見える北アルプスです。これはもう定番といえば定番ですが、松本城と常念を中心とした北アルプスをお城周辺から見る景色、これは、私が小学生の時の原風景であり、今も一番好きな景色です。

松本の景観を守るため、市民そして行政が一緒になってルールを積み重ね、松本城周辺は16m以上の建物は建てられず、そこから徐々に高さ制限が緩和されて、駅前周辺の高さ制限は、条例で45mとなっています。45mという高さは、松本城天守閣をほぼ30mとすると1.5倍の高さになります。

原山さんがご指摘の新しいマンションの高さも45mと確認しています。

一方で、市街地に高さ制限を超える建物もいくつか存在していますが、これは条例ができる前に既に計画をされていて、止める術がなかったもので、例えば、ホテルブエナビスタは、約60mの高さがあります。こうしたものは、市民の皆さんから見て、今のルールと違う建物が建っているという状況となっています。

松本という街は、お城を中心に明治以降の市町村合併で農村部へと広がり、西は北アルプス、東は美ヶ原までが一体となって、今の松本市となっています。

お城周辺から、北アルプスあるいは美ヶ原を見通せるような、そういう街をこれからも大切にしていかなければいけないと思っています。

松本市の景観計画では、「視点場」を大事にしています。全ての地点からお城やアルプスを見ることは無理ですが、先人の皆さんが大切にしてきたルール、そして視点場を大切に街作りを進めていきます。

基本はお城と山に最も価値を置きますが、プラスアルファとして、私が意識していることを申し上げれば、これまで不足していた、若い世代が、街中で自由に活動でき、集える公共空間の創設を目指します。

私達は「えきしろ空間」と呼んでいます。駅からお城までをできるだけ歩いて楽しんでいただけるような、そういう街にしていこうと考えています。

もちろん、車の交通を完全に遮断することはできませんが、お城を中心とした街を作って、賑わいの拠点にしていきたいと思っています。

最後に、高層ビルの建設をするのかというご質問ですが、駅前エリアで民間事業者がビルを建てようとしていることは、需要があるということで、進めていくことに変わりはありません。

単にマンションを作っても、賑わいは生み出すことはできません。そこに住む人達だけの建物ということではなく、低層階は、一般の多世代の人達が、訪れて集ま

れるような空間であったり、施設になることが望ましいと考えています。

松本駅も含まれる東地区エリアは、賑わいの中心として、高さ制限の緩和、公共空間の創設、これらを審査会の皆さんと共に考えていきたい。

繰り返しになりますが、松本という街は、お城を中心にそれぞれの視点場から、アルプスや美ヶ原などが見える環境を本当に大切にしないといけないという思いに変わりはありません。

【原山町会長】

折しも長野市駅前では、地上 85m の高層ビルの建設が発表されました。その推移も注視していきたいと思います。

ホテルや高層マンションは土地の有効利用であり、景観条例に準拠した総合的な経済活動として、否定されるべきではないとは考えています。

しかしながら、公共の景観を独占する側面があるとも考えます。

松本市では、9 月 30 日から新市庁舎建設に向けた意見公募が始まっています。

ここで、ご参考までに、市民に景観を開放する施設として、神奈川県庁最上階 1 2 階の展望レストランを紹介します。

このレストランは、市民に景観を開放し共有する姿勢が示されています。東京都庁舎でも同様の試みが見られます。

松本市の新市庁舎にも、同じような場所があると嬉しく思うし、臥雲市長には、景観の公共性を意識した街作りを期待します。

【市長】

神奈川県庁 1 2 階の食堂からの眺望というお話をいただきました。

議会の了承も得て、進めようとしている市役所建設計画は多岐にわたりますが、原山さんがおっしゃられたような眺望を公共に開放するということを、しっかりと受け止めていかなければと思っています。

(2) 中学校部活動の地域移行について

【太田町会長】

私からは、中学校部活動の地域移行について 2 点お伺いします。

最初に、教員の働き方改革に伴い、松本市の中学校の部活動が令和 8 年度をもって終了ということは承知しています。今後、松本市の部活動の地域展開はどのようになりますか？清水中学校の具体的な状況をお聞かせいただきたい。

2 点目は、私達は、子供は地域の皆で育てるんだと思っています。

今回の部活動の地域移行に対して、地域として何ができるか、あるいは何をしたいのか。そういったものを、行政から発信していただければ、今後、地区の事業活動に取り込める可能性もあるので、具体的にお話いただければと思います。

【腰原さん】

清水中学校では、美術部が一番人数が多い部活で、作品の制作を通して技術を学び、クラス以外の子供たちとの関わりを楽しんでいます。

私の娘も美術部員ですが、松チャレの中に受け入れ先がないのが気になります。

美術が好きな子供たちの受け入れ先をぜひ作ってあげて欲しいです。

学校内で部活ができれば、移動の手間なく、道具も場所も自由に使えました。地域移行されると、送迎が必要になり、保護者が仕事等でいないときは部活に通うことができなくなるし、道具もいちから揃えなくてはならない、場所代の費用も出て

くるなど、家庭に大きく負担がのしかかってきます。

小中学生がいる団体は、公共の場所の利用を無料にするなど、市の方で少しでも補助していただけるのか、お聞きしたいです。

今、市から松チャレ通信を出してくれていますが、学校からデータで送られてくるだけで、紙ですぐ見ることはできません。ポスターもありません。そのため、興味がある親しか見ていません。

今までは、4月に校内で全ての部活体験ができていました。今後は、子供達がい
ろいろな部活があることを知ることがないまま、小中学校時代を終えてしまうこと
が気がかりです。子供の目に見えるところに知る機会を作ってあげて、大人にこれ
やってみたいと言える環境になってほしいと思います。



【市長】

清水中学校に、具体的にどのような動きがあるかということは、後ほど、降旗課長補佐から説明をさせていただきます。

その前に私から、全国で中学部活の地域移行展開を進めていくことになった背景を、皆さんもご承知かと思いますが、話をさせていただきます。

一番は、小学校中学校全体のお子さんの数が減っている一方で、極めて多様な事情や個性を持ったお子さん、一例を申し上げれば発達障害のお子さんの数は増えている。そして、できるだけ1人1人と先生が向き合って、多様なお子さんの育ちを支えていける体制を作っていくと、いわゆる不登校という状態がどんどん広がる。そして、先生自体が疲弊し、なり手もなくなっていく。この状態を、いろいろなアプローチを組み合わせながら、改善していかなければいけないというのが根底にあります。そのひとつの方法が、中学の場合、部活動の地域移行だと思っています。

私自身も、部活によって自分は成長したなと感じる1人なので、これまで日本において、中学校の先生、あるいは中学校の施設をフル稼働して、中学生の学業以外のスポーツや文化の活動を支援する、その仕組みは非常に意義があった。あるいは、うまく支えることができていたと思っています。なので、そうした意義はできるだけ引き継ぎながら、先生と学校の本業の部分に、余裕をもう少し増やすという取り組みを考えています。

当初、学校の中では活動を行えないようにするのか、学校の施設は使えないことが前提なのかなど、説明不足もあって、強く伝わった部分がありました。

部活動には、今後関わらないという先生方も相当数程度いらっしゃると思いますが、施設については、できるだけ学校の施設を利用していただけるような、工夫とか仕組みを今進めています。

そして、腰原さんが言及された美術部については、特に学校に残す必要性について、校長先生から声が上がっています。美術部の生徒さんに教育委員会がアンケートをとったところ、もちろん美術が好きでというお子さんもいれば、美術部という場所が、自分にとって、放課後の居場所として心地よく過ごせるということを理由に挙げるお子さんも非常に多いということがわかりました。本当はもう学校に行きたくないという思いが強くあったけれど、美術部に入って、放課後そこに行けることで、学校に通い続けられたといったお声も寄せられています。これを重く受けとめて、できるだけ残していこうということで話を進めています。

【降旗課長補佐】

私達は、お子さん、それから保護者の方に送迎負担がかからないように、なるべく学区内、学区外であっても自転車で通える範囲でクラブが入るような形でエリア別に整理を始めています。その中でも、清水中学校学区は、比較的クラブの受け皿が多いところだと思っています。

具体的に説明しますと、男女バレーボールは、バレーボール協会でもエリア別に立ち上げる計画で、おそらく今年度中には、何かしらのクラブが立ち上がってくる予定となっています。男子バスケットボールは、旭町中学校が会場になりますが、クラブが立ち上がる予定です。女子バスケットボールは、山辺中学校でクラブが立ち上がり、そちらが受け皿になると考えています。卓球は、清水中学校でクラブが既に活動を始めています。サッカーは、清水中開成中合同で、既にクラブが立ち上がっています。野球は、女鳥羽中清水中合同で活動しています。テニスは、ソフトテニス協会でも、エリア別にクラブを立ち上げることを計画しています。吹奏楽部は、開成中清水中で合同バンドでのクラブ設立を模索しています。合唱は、波田合唱クラブという元々波田が先行しているクラブがあり、そこに清水中学校が入る形で検討しています。美術は、先ほど市長から話があったようになっています。

それから、地域移行になると、今まで部活動にはなかった種目が選択肢になってきます。例えば剣道は、ながいち剣道愛好会が活動しています。バトミントン、源池小、旭町小でクラブが立ち上がっています。オーケストラは、松本ジュニア室内楽団があります。

今後も、情報提供を促しながら、なるべく保護者の皆様の負担にならないようにクラブを立ち上げていきたいと考えています。

【市長】

私から、今の話を踏まえて続けさせていただきますと、従来あるクラブが全て学校に残るということに必ずしもならない、近くの学校との合同や民間との連携もあるという事を申し上げておきます。

今回の根幹の大きな課題は、学校の先生以外で、子供達にスポーツや文化活動をコーチする、サポートをする、一緒になって活動する大人をどれだけ増やしていけるかだと思っています。もちろん、平日の日中働いている方々が、平日の放課後の時間帯から関わることは難しいが、土日や、あるいは大学生や、お仕事は少し離れておられる方々に、できる範囲で、あるいは自分の興味関心のある部分についての活動に参加していただくということに、私達は、一番力を入れていかなければいけないと思っています。

そして、従来部活になかった活動、例えば小学校までは地域の人達が教えてきた活動、一例として太鼓などが、中学である意味1回途切れてしまっていたが、太鼓クラブというようなものが、地元の皆さんが今まで子供達を教えていた延長線上で

立ち上がれば、地域クラブの一例となると考えています。

子供は地域 みんなで育てると太田さんがおっしゃっていただいたように、子供達との接点を広げて、何ができるかということを考えていただけるような環境を私達として整えていきたいと思っています。

腰原さんからの移動と費用の負担については、今まで学校で部活動を行っている時にはなかった費用が、一定程度上乗せになるということは、避けられないことですが、費用負担の軽減等について考えていきたいと思っています。

移動については、今まで、学校から離れたところで民間のスポーツ活動をする場合は、家に帰ってから行くことを学校側は厳格に求めていたが、これからは、自転車で学校に行って、そして放課後授業が終わったら、学校から活動場所に移動できるように、ルール作りをしっかりとしながら、準備をしていただいています。

最後に、腰原さんがおっしゃっていた子供達の目に見える形で、こんな活動がある。そんな活動もある。こんな種目を新しくできる。自分の本当にやりたいと思うことはどこだったらできる。

こういうことを、いろいろな媒体を使って、もっと幅広く広報しなければいけないというのはおっしゃる通りだと思います。

ご指摘いただいた事は、しっかり受け止めていきたい。



【太田町会長】

細かくありがとうございました。

いずれにしても、少子化ということで、子供中心ということは絶対忘れないように、子供さんの事故がないような形も考えながら、子供中心の考えで共生を進めていただければありがたいです。

【腰原さん】

子供達が、生き生きと生活できるような環境作りをぜひ整えて欲しいです。

【市長】

ありがとうございます。今日いただいた話は、改めて教育委員会と共有して、取り組んでまいりたいと思っています。

(3) 道路の渋滞解消について

【吉田町会長】

私からは、渋滞解消について2点お伺いします。

1点目は、イオンモール付近のやまびこ道路及び松本和田線県道67号線の渋滞解消についてです。これは、他の地区からも出ている問題だと思います。

2017年にイオンモールがオープンして、予測通りやまびこ道路の渋滞が発生しました。その後、8年が経過している今現在も、渋滞が解消されていません。

先日、南松本駅南側の開かずの踏切の立体交差工事が10月末から始まり、工事期間は約10年間、その間、県はやまびこ道路や国道19号への迂回を呼びかけていると新聞で見ましたが、渋滞がますますひどくなるのではないかと懸念しています。

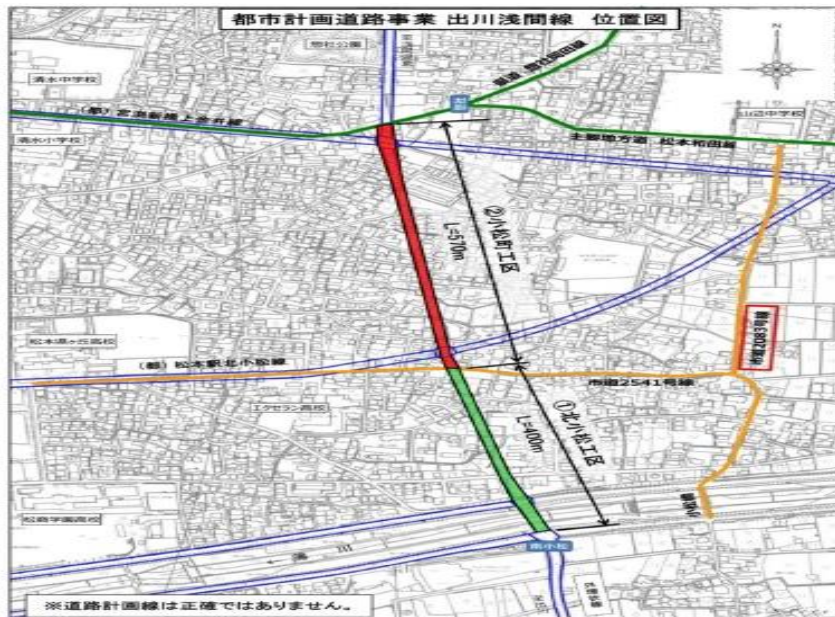
昨年、イオン渋滞を回避できる道路が2028年の完成を目指し、着工されたようで

すが、共用開始は未定となっていました。

渋滞を避けて道幅の狭い生活道路に進入し、猛スピードで走り抜ける。また、渋滞で信号が変わっても路地から出られない、家から車が出せない、これは、東部地区だけではなく、イオンモール周辺の他地区においても起こっている問題だと思えます。

質問ですが、回避道路の進捗状況、市として、供用開始の時期はいつ頃予定しているのかをお答えください。

また、イオンモール付近の渋滞対策について、市長はどのように考えているのか伺いたい。



【市長】

お話の回避道路は、都市計画道出川浅間線で、南小松の薄川の南側から新しい橋を作って北小松工区までを通して、その後、その先の惣社まで通すという道路です。松本市では、外環状線の一部と位置づけており、将来的には浅間方面に道路を拡幅をしていくという計画になっています。

令和元年当時の見通しとしては、令和10年度を共用開始としていましたが、山の子保育園との移転交渉などに時間を要しており、延長せざるを得ないというのが現状です。

イオンモールに関連する渋滞が少しでも緩和するための道路としては、あがたの森通りのイオンモール交差点からあがたの森までの拡幅工事が、非常に時間がかかりましたが、来月の末には完了します。

これは、周辺の渋滞要因になっていたと思うので、十分ではないですが緩和の要因の一つと考えています。

出川浅間線は、松本市が事業主体の道路ですので、用地買収も建設も松本市が責任を持って行っています。

これに対し、松本駅からあがたの森まで繋がる道路、これは県道で長野県が事業主体、私達としては、市民の皆さんの要望を長野県に伝えて、何とか事業進捗を図っていくということになります。

もう一つ、桜橋東交差点から里山辺の方にのびている道路、宮渕新橋北小松線で

すが、ご承知のように桜橋東交差点から清水1丁目の交差点ぐらいまでは整備が済んでいます、その先については、まだ歩道の設置工事を行っていたり、電線の共同溝の工事を行っている状況です。この道路が、清水中学校清水小学校を越えて、予定をしている惣社まで全て拡幅が完了するのは、令和10年頃になるだろうと報告を受けています。

この道路も、長野県が事業主体なので、我々としては、街作りを進めていく上でより優先度が高いことを伝え、早期の完成を要望しています。

今おっしゃられたような周辺の道路、松本市道と長野県道は、我々が責任と権限を有する部分に差があるわけですが、市民の皆さんから見れば、同じ道路で、松本市がどれだけ汗をかき、事業を進められるかということが、我々が問われることだと思っているので、工事期間をどうやって短縮できるかということに、できる限り取り組んでいます。

冒頭の景観の話の中でも少し出ましたが、松本の城下町特有の道路構造が、車で通行するには、非常に不適格な状況を招いているという問題もあります。

公共交通利用あるいは自転車や徒歩で移動ということをもっと松本市全体で皆さんに協力をしていただけるような取り組みをしていかなければと思います。

【吉田町会長】

回避道路に関して、並柳から惣社のアクセスを向上させるものということですが実際に回避道路ができることにより、イオンモール付近の渋滞がどのくらい解消できるかというデータはありますか。

【市長】

今、数字を申し上げる用意がありません。

建設部として、この道路ができることによって、一定の交通量が緩和されるということは弾いていますが、例えば、通り過ぎる時間が何分短縮するとか、そういうことをクリアにお示しすることはおそらく、難しいと思っています。

【吉田町会長】

それでは、2点目の質問ですが、令和2年に実施された渋滞調査によると、桜橋東交差点は渋滞対策が必要とされていますが、その後の進捗状況はどうなっているでしょうか。

県道松本和田線は、松本城から美ヶ原温泉浅間温泉に通じる観光客の方も利用する交通量が多い道路です。桜橋東交差点は、やまびこ道路と県道松本和田線が交差しており、両方に右折レーンがありますが、右折用の矢印信号はやまびこ道路側には設置されていますが、県道側には設置されていないため、なかなか右折ができません。いわゆる松本走りで交差点に入ってくる車が多く、また、信号機が歩車分離式でないため、歩行者にとって非常に危険な状態です。実際に事故にあいそうになったという話も聞いています。

また、対向車が黄色信号でも進入してくるため、信号が赤になってから1、2台無理やり右折をしていくということが常にあります。

国道143号線と県道が交差する城東2丁目信号には、県道から国道への右折信号がついていますが、桜橋東交差点は、やまびこ道路側にしかないのは何故ですか。

信号機の設置要望は、警察署の交通課になると思うが、地元として県道側からの右折矢印信号の設置を強く希望します。

また、信号機設置を実現するために、地元としてできることはあるのか。また、

市から県に働きかけをするなどの後押しをしていただくことは可能ですか。

【市長】

今、吉田さんにご説明いただいたように、信号機の設置権限は長野県警察本部にあるので、地元の皆さんの要望を受け、その必要性を長野県や長野県警察本部に対して、要望をきちんと上げていくということが私達の仕事です。

桜橋東交差点に、右折信号を設置する必要性を吉田さんからいただきました。

この必要性ついて、地元の皆さんからもお話をいただく機会を設けさせていただき、長野県あるいは長野県警察本部に、どういうふうに要望行動を行っていくかということを考えさせていただきたい。

【吉田町会長】

今の言葉をお聞きして理解できました。

できるだけ早く実現していただきたい。いつも桜橋の上で渋滞する、右折ができないとか、町会からそういう意見が出ています。地元としてできることがあれば協力したいので、是非よろしく願いしたい。

【新村町会長】

昨年から山辺の方に畑を借りていて、私が、畑から帰ってくる時間が8時頃ですが、道路が非常に渋滞しています。

バス停に必ず待っている方がいて、この方たちのために、バスレーンはとても無理な話ですが、なんとかしないとバス利用の方が非常に不便しているのではないかと思います。是非、お知恵を絞っていただきたい。

(4) その他

【乾さん】

今期、民生委員が一斉改選されました。

民生だけでなく町会もそうだと思うが、とにかく手がないというのが最大の困った点というか、皆さんが頭を悩ませているところだと思います。的外れなことなのかもしれませんが、行政と一般企業等が連携をして何かできないかと思います。企業理念などに「地元とともに」とか「地元の皆さんと一緒に」とか、そういう言葉が必ず入っています。

そうであれば、企業が地区との関わりを持って、例えば民生をやるとか、町会の何かの係をやるとか、そういったことができるような形はとれないかと思います。

行政だけ、企業だけではもちろんできないですが、連携できるようになれば、何年後か何十年後かはわかりませんが、良い形ができるかもしれないというふうに思います。

何かできるようであれば、是非お考えいただいて、未来に繋げていただけたらと思ったので、意見ということです。



【市長】

非常に大切な指摘、視点というふうに思います。

松本の色々な地域の特性はありますが、少なくとも、昼間と夜間、皆さんがご自宅で過ごされる時間帯の人口の集まりは大きく違います。

街中については、基本的に住む人が減っていて、逆に仕事場として、日中、企業で働いている方が大勢いらっしゃる。そうであるなら、企業の皆さんに、昼間の街中の住民自治活動の一翼を担っていただく。完全ではないが消防団は、何かあったときには、企業の社員の皆さんが担っていただいています。

市役所は、市役所消防団を作っていて、市役所本庁で勤務している人間が、何かあったときには対応するようになっています。

これを、民生委員とかあるいは町会役員とか、なり手不足の問題を解消する一つの視点としてどこまで考えられるか。改めて、可能性を見ていく必要があると思います。

企業で働いている方は、ご自宅の町会、ご自宅での役割というものもあって、いわば2つの拠点を持っておられる方に、どういう形で参加していただくことが可能で望ましいのかといったことも考えていくポイントだなと思います。

【百瀬町会長】

町会長活動ハンドブックの中に、松本市災害時サポート事業所登録制度登録事業所一覧があります。

東部地区は、防災に力を入れています、14町会ある中で一覧に載っているのは4社だけです。

企業も地域にお世話になっているので、やはり何かあった時、いざという時、みんなで協力するような体制作りをして、地域を守っていただければありがたい。

この制度を知らない人が多いので、サポート企業を少しでも増やしていただく取り組みをしてほしいし、盛り上げていただければありがたいと思います。

【市長】

ご指摘ありがとうございます。

消防防災課が実務を行うのですが、企業に対するアプローチは、商工課等企業に近い立場にいる部署が、一緒になって巻き込んでいかないとなかなか広がらないと思います。

もっともっと制度を理解していただいて参加していただけるよう、企業を地域と結び付ける認識広めていく必要があると思います。

【吉田町会長】

私は、今年初めて国政調査員を担当させていただきました。

非常に大変というか、1人でも多く回答者を募るということで進めてはいるが、現実には、電気がついていても出てこないとか、オートロックで入れないとか、そういうことがたくさんあります。

国勢調査員については、制度を見直しをしてほしいです。

昔は、お宅に寄って色々お話して、お聞きして回答をいただくという形だったが現在は、当然そういうわけにいきません。

また5年後、調査員になられる方が大変な思いをしないように、それまでに検討していただければと思います。

【市長】

現在も、手渡しで調査票を配布し、後日、直接回収するという方法だけではなくて、インターネットで提出していただく、あるいは郵送していただくという回答方法もありますが、それだと回答が十分得られないとか、あるいはご年配の方々の中には、従来の方法を重視すべきだと考える方々もいらっしゃると思います。

直接回収するという方法を、完全になくすということはできませんが、事前に周知し、協力を呼びかけ、変えていかなければいけないことだと思っています。

どのような形で調査員に担っていただくかということを、5年後も変わっていないじゃないか、ということにならないように今から検討を始めます。

6 振り返り

【市長】

35地区1ヶ月にいったんの座談会を開かせていただいておりますが、いつも感じるのは、松本の都市の多様性といいますか、街中から山間部まで課題も多様、そして、魅力もまた多様。

全体を一括して見るのではなくて、できるだけ個別具体的に皆さんと向き合えるそういう市役所でありたいと感じています。

地域づくりセンターについても、センター長ができるだけその地区の問題について、何かご要望があるときにしっかりと向き合って、本庁の責任者に地域の皆さんの要望を届け、解決していけるようにと思っております。

町会長の皆様方には、本当に色々な御負担をお願いしているところでございますが、それぞれの政策課題、あるいは地域支援の枠組みについて様々なご意見ご提案をいただきました。持ち帰って、前に進めていきたいと思っておりますので、どうか引き続き、ご協力ご支援よろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

【新村町会長】

博物館が撤去されて、松本城が非常に綺麗に見えるようになりました。やはり景観というのは重要だと思いました。

臥雲市長、市の幹部の皆様方、貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。

太鼓の話は、深志神社で子供達の太鼓の練習をやっておりまして、うちも舞台を出します。太鼓の叩ける子供は、優先的に舞台に乗せますので、ぜひ太鼓の修行をやっていただきたいなと思います。

それからですね、腰原さんの娘さんは、剣道もやってらっしゃるんです。剣道の先生は、近くのコンビニの店長さんで、できるだけそのコンビニで買い物にしよう、というふうに思います。

何か地域の役に立つということは、子供の役にも立っているのかな。そんなふうに思っています。

こういう機会に、みんなで話をして松本で暮らしたいという人を、いかに増やすか、これが重要なことだと思っています。

皆様と有意義な時間を享受させていただいたことを感謝いたします。

今日は、お忙しい中お集まりいただきまして本当にありがとうございました。

